

みつくら

令和 7年 1月15日 第426号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

交通安全広告塔を改修する

令和5年の4月13日の未明に県道285号線沿い菅野裕二さん宅南側に設置されていた交通安全広告塔が強風により倒れた。幸いにも県道を塞ぐ事もなく怪我人もなかった。交通安全協会大瀬川分会では、基礎コンクリート撤去に大きな資金が必要となるため、基礎を途中まで利用し塔の高さを半分にして改修する方向で検討した結果、大瀬川活性化会議に助成申請を行い、令和6年10月に改修された。新しい広告塔はアルミ製で、北面には「事故違反ゼロが地域の笑顔の輪」、南面は「きっぱりと飲んだら乗らない」の標語が黄色地に赤と黒のフィルム印刷で仕上げられ残した基礎部分を利用し挟み込んで設置されている。

設置費用は、236,500円で大瀬川活性化会議の公募事業より100,000円と大瀬川分会より136,500円で改修された。この場所は、ちょうどカーブにあるため夜もヘッドライトが当たると、両方からハッキリ見えて注意喚起に役立っている。

8区の各班で収穫感謝祭

8区ではコロナ禍以降、令和6年は各班共そろって収穫感謝祭を行った。1班（菅原博班長）は11月16日に紫波グリーンホテルで23人が参加して手踊りなどで親交を深めた。2班（菅原浩孝班長）は11月10日に紫波グリーンホテルで16人が参加してビンゴゲームなどをしながら親睦を深めた。3班（板垣三保子班長）は11月14日に6人が参加して紫波グリーンホテルで開かれた。この日は「農協年金友の会の集い」と重なったために例年より参加者が少なかった。4班（熊谷茂班長）では11月10日に紫波グリーンホテルで13人が参加して収穫感謝祭が開かれた。いずれの班でも、当日に令和7年度の各班に割り当てられている各員を決めて披露された。

陸羽132号が全国放送

陸羽132号は日本米の品種改良の先駆けとなる冷害とい

もち病に強いとされる品種で、宮沢賢治はその作付けを推奨したとされる。11月20日のNHK総合テレビで板垣農場の陸羽132号が全国放送された。番組は「歴史探偵・宮沢賢治と銀河鉄道の夜」で大島丈志が宮沢賢治を解説したもの。宮崎駿監督や米津玄師など、現代のアーティストにも大きな影響を与え続ける宮沢賢治。その代表作である「銀河鉄道の夜」の世界をCGで再現し、その物語の魅力を余すところなく放映していた。今から丁度100年前に書かれた作品が、当時最先端の科学知識を取り込みながら、今に通じる深いテーマを物語に織り込む賢治の類まれな力に焦点を当てていた。農民に奨めた陸羽132号が台風で倒伏し大きな減収を余儀なくされた時に、果たして自分が奨めたことが正しかったのか賢治は悩んだというものであった。その陸羽132号が100年後の現在も賢治精神を受け継いで岩手で栽培されている場面で、青々とした水田の様子、穂揃いした稲穂の姿と、働いている板垣光彦さんが映し出されたのである。100年という年月に、あらためて継続することがいかに難しいことかを学ばされた。

農地維持活動の草刈り作業に74名が参加

下大瀬川美土里の会（高橋義晃代表）では、令和6年度分の農地維持活動の堰払いと草刈り作業分の対象者74名に2、484千円を12月8日に9区自治公民館で支払った。今年度は6回の草刈り作業の他に、10月にふれあい運動公園東側の薬師堂川路肩の草刈りと葛丸川河川敷の一部伐採と草刈り作業を行った。

畦畔等草刈り日当に1、083万円

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長）では12月8日に令和6年度の草刈り日当1、083万円を支払った。これは、対象となる農地維持活動交付金1、097万円のほぼ総額に値する。当会に農地維持活動は他に「泥上げ」などの日当があったので不足金額の約70万円を共同活動から繰り入れて支払った。これらの草刈りには延べ約1、200名が出役している。

ブルリの杜にカホンなどが贈呈される

12月9日に障害がい者生活介護施設のブルリの杜に仙台市に本社を置くリバーランズエンジニアリング株式会社からカホンなどが贈呈され式典が行われた。カホンとは南米ペルー発祥の長方形の箱型の打楽器。カホン3台のほか、一輪車1台・エンジン式草刈り機1台・スコップやゴム手袋などが贈られた。

リバーランズエンジニアリング株式会社は11月まで東北自動車道の葛丸川に架かる橋の工事の補修工事を請け負っており、10月に行われたブルリ祭を訪れたのをきっかけに、地域社会貢献の一環として今回の贈呈となった。

ブルリの杜では現在15名の利用者が盛岡市や花巻市などから通っており、畑作業やウォーキング等いろいろな活動に取り組んでいる。毎年10月初旬に開催している「ブルリ祭」で、今年はカホン演奏をお披露目する計画をしている、その際には

バーランズエンジニアリングさんを招待する予定をしている。

恒例の全戸訪問が行われる

長年、恒例となっている交通安全協会大瀬川分会（板垣吉彦会長）の飲酒運転撲滅を呼びかける全戸訪問が12月8日に行われた。

当日は今年一番となる寒さの中、同会の他に石鳥谷交番の署員をはじめ、交通安全協会石鳥谷支会長、各自治公民館、大瀬川防犯協会、交通指導員ら32名が大瀬川振興センターへ9時に集合した。

出発前に全戸訪問用の資材を配分した。資材はA3のチラシで「飲酒運転は犯罪です!飲んで天国、乗ったら地獄・・・それでも乗りますか」や、錦木関が入ったA4の特殊詐欺撃退チラシ、年末年始の防犯特別警戒のパンフレットと一緒に、カレンダーに替わって今年は高齢者の事故防止喚起が印刷されたトイレットペーパー2個を持って、地区内約190戸へ14班に分かれ各家々を訪問した。トイレットペーパーは大瀬川振興センターをはじめ、改善センターや各自治公民館にも配布している。

表彰

花巻市消防団施設点検 「優秀賞」 第13分団第2部

消防団第2部が施設点検で優秀賞受賞

花巻市石鳥谷町内26屯所で、大瀬川の消防団員が属している13分団第2部（畠山智明部長）が12月14日、施設点検優秀賞を高橋司花巻市消防団長から受賞した。

花巻市消防団では、定期的に施設点検を行い、いつでも緊急出動ができるように備えている。町内にある26屯所では11月17日に屯所ごとに消防自動車やそれに伴う備品の点検、屯所内の整理整頓など多項目にわたって点検を実施した。そのような点検活動が審査され、最高賞である優秀賞を受章したもの。ちなみに努力賞は13分団第4部（北寺林）であった。

13分団第2部の優秀賞は昨年に続いて連続受賞となり、畠山智明部長は「日頃の点検の結果が認められて今後の励みになりました。これも日頃から、団員の皆さんの心がけの成果だと思います」と語った。

書作展に熊谷さん二人が出展

石鳥谷図書館（辻村契子館長）で12月27日まで1ヶ月間開催された石鳥谷書道会の作品展である「書作展」に熊谷青翠（美奈子）さんと熊谷静香さんの二人が出展した。熊谷青翠さんは「愛閑静」、熊谷静香さんは「ゲーテの言葉より」と「陸放翁詩」の二作品であった。

この書作展には11人の書家が19作品を展示していた。

みつくら 令和 7年 1月15日 第426号 発行 大瀬川活性化会議 編集 「みつくら」編集委員会 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2 大瀬川振興センター 電話45-6472 “お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”	るとある。しかし、この獅子頭の奉納日から察すると、幸いにも座元となっていた上野家にこの獅子頭とその前に使っていた獅子頭と面14点が残リ焼失を免れた事が想像される。 この大瀬川神楽は明治3年頃に早池峰岳神楽流で八幡神楽の門人から教わり、初代座元を上野の高橋藤兵門（その後に籐左左エ門し変更している）とし楽士は大瀬川各区からの18件ほどで始まり、昭和30年頃までは小正月に各家々を門かけをしている。その後、一時期休止となったが昭和51年に大瀬川神楽保存会として、初代会長は故高橋英吉（上野）で再発足し、2代目の故藤原進氏（上朴田）が昭和52年に旧大瀬川公民館で行われた石鳥谷町神楽大会に出演した。 現在は、畠山絹雄氏が平成18年から会長となっており、3代目となる獅子頭は、畠山会長が自ら見つけた桐の木を彫刻刀等で切り抜き、カシュー塗装までを約1年近くかけて制作した。また、神楽幕は軽くて昔ながらの麻で制作し、熊谷美奈子さん書で「令和7年元旦 黒森山大権現 大瀬川神楽保存会」と書かれ染められている。 現在の会員は、畠山絹雄（笛）熊谷茂（舞・太鼓・鉦）熊谷和典（舞・太鼓・鉦）熊谷美奈子（舞・太鼓・鉦）藤原美輝（舞・太鼓・鉦）熊谷雅人（舞・鉦）で、今回の獅子頭製作には、神楽保存会のメンバーが長年蓄えた資金を使って完成し新しく魂を入れた。1月12日に行われる9区新年交賀会の中でも権現舞を披露する予定にしている。	以来なので久しぶりの懇談で賑わっていた。
「たろし滝と共に50年」を出版 大瀬川たろし滝測定保存会の前会長である板垣寛さんは12月25日に「たろし滝と共に50年」を出版した。本の体裁は新書版で115P、印刷は大迫町の清水印刷。内容は毎年 の測定写真を主体にその年の和暦、たろし滝の太さ、岩手県全県と北上川上流、北上川下流の各作況指数、その年の2月と8月の盛岡と一関の各平均最低気温と平均最高気温、それにたろし滝に関する行事実施日、さらに毎年の「たろし滝川柳」が掲載されている。 菅原黎治さんは「50年分のたろし滝の姿をととも見やすく編集しているので、この本を大切に、後世の方々にもいつか読んで欲しいものです」と話しておられた。また、この本は、書店等で980円で購入することができる。ない場合は、直接板垣さんにお聞き下さい。	元旦祭が厳かに行われる 29日に降った雪が残る中、山祇神社、天満宮の両神社では12月31日の午前中に総代と氏子による社殿と境内の掃除を行い、しめ縄や幣束を飾った。翌日の朝5時から天満宮、6時からは山祇神社で元旦祭が大瀬川神楽保存会の音の中、直町宮司と責任役員・総代による新年の安寧を願った神事が厳かに行われた。神事の最中にも初詣の参拝者が鳴らす本坪鈴（ほんつばすず）の音が聞こえていた。	ズーズー井で和同産業のCM FM花巻が放送している和同産業のCMを先日収録して来た。今回は3回目である。このCMは「かかあ天下の夫婦掛け合いシリーズ」で、強い花巻弁で話すのが求められ、1回目は1年前の10月で、ロボット草刈り機のCMであった。妻（柳原睦子アナウンサー）が草刈を怠けている夫に小言を言ったのに対して、夫役は「ほだがら、和同産業のクロノスを買って言ったけい」というもの。2回目は半年前で、妻が「いづまで寝でるてや、はやぐ起きで草がりしたらえがんべい」に対して「でーじょぶだ〜、おれが寝でても和同産業のクロノスが一人で草かつてけでるがら」というもの。 今回の3回目は、二種類あってロボット草刈り機と除雪機であった。ロボット草刈り機の方は、妻が「ちょとあんだ!、あんまし草伸びる前に、はやぐロボット草刈り機うごがしてこじゃ」に夫役は「でじょぶだ〜。ちゃんとすたぐすてらす、和同産業のクロノスだがら、のびでもええでば」。妻が「ほんだったって、あんましのびでだら、クロノスがむんじえがべい」とに対して夫役は「ほんだがら、ちゃんとすたぐすてらってば」。妻が「あんだよりかせぐんだがら、クロノスでんずにすんだじえ」に「わがってらあ。ほだども俺より稼ぐづごどねがべい」。妻が「クロノスは、雨でもよなが（夜間）でも稼せんでるがら、あんだより偉れがべい」と、こんな感じであった。また、除雪機のCMでもこのような妻とのやりとりで収録は終わった。普段、妻から言われてる小言であったから、何ら困ることはなく無事に終了できた。 このCMは令和7年1月から毎日18時直前にFM花巻で放送の予定。
たんぼぼの会でクリスマス会を行う たんぼぼの会（熊谷幸子会長）では、12月25日に9区自治公民館「クリスマス会」が19名参加で行われた。今回は、指先の運動として折り紙で配られたお菓子を入れる箱を作ったり、合唱したりして楽しく過ごした。	8区自治公民館が新年交賀会 1月4日に大瀬川振興センターで27名が出席して第8区自治公民館の新年交賀会が開かれた。千田安彦副館長の開会の後に熊谷秀夫館長は「本日は、何かとお忙しいところ、多くの皆様にご出席いただきありがとうございます。昨年は元日に大きな震災があり、大変なスタートとなった一年でありました。今年は穏やかな正月ですので、このまま平穏で豊かな年ですよう祈っております」と挨拶した。 続いて菅原昭悦第8区長から「昨年からコロナ禍が緩和され、5年ぶりの新年交賀会まことにおめでとうございます。私の任期はもう1年ありますので、昨年同様、今年もよろしくお願いたします」と祝辞があり、続いて、菅原純一第8区農家組合長は「今日はお招きいただきましてありがとうございます。今年は大きな災害もない、安寧な一年でありますように祈っております」とお祝いを述べた。新年交賀会は令和元年に開かれて	訃報 古場家の熊谷榮子さんは、12月6日に91歳で亡くなりました。熊谷さんは紫波町片寄堤下の出身で、1年前までは畑の草取りをするなど元気でおられましたが突然の訃報にびっくりしてしまいました。熊谷さんは、町消防団第2分団長や町農協代表監事を担われたご主人の熊谷保造さんが20年前に亡くなられてからも畑仕事など家業を支えた方でした。熊谷さんで思い出すのは大瀬川からただ一人、特攻隊で亡くなられました熊谷由栄（保造さんの兄）さんの遺書を見せられたことでした。あまり口外しないでいましたその遺書を、平成16年の戦没者慰霊祭で菊池昭六宮司が祝詞で捧げられたのでした。その祝詞は「小兵此の度特幹四ヶ月の訓練を終えて帰郷せしは是から國家の興亡を一身に負って船舶兵としての新任務に就く故家の皆様最後の別れを告げんが為なり」から始まっていました。この遺書は仏壇の位牌の中に隠されていたそうです。大瀬川婦人協議会監事などで地区に尽くされ、野菜作りがじょうずで働き者でお話し好きでした熊谷さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。